

2 研修手法例

(1) マインドマップ ~発想を広げ、新たなアイデアを生む~

所要時間 20分
事前準備 無

キーワードから連想したことを放射線状に書き込み、線でつなぎ、発想を広げながら図式化していきます。頭に浮かんだことを筋道立てて書くことで、思考のつながりを可視化して新たなアイデアを生み出します。また、全体像を共有することにも役立ちます。

人数

2人以上
(1グループ2~4人程度)

準備物

・A3用紙または模造紙
・マーカー(多色)

テーマ例

・行事の企画
・環境構成の見直し
・遊びの展開を考える 等

進め方

Step1 5分	○テーマとなるキーワードに沿って個人でマインドマップを作る。 ・思いついたことを連鎖させ放射線状の図式として表していく。
Step2 10分	○全員のアイデアを出し合う。 ・共通のキーワードを用紙の真ん中に記入する。 ・各自のマインドマップを見合い、それを基にグループのマインドマップに広げていく。 ・発想を出し合いながら、共通の言葉をまとめたり、枝分かれの項目をポイントとなる言葉で表現したりする。
Step3 5分	○全体で共有する。 ・まとめたマインドマップから新たな視点の付け加えができないか、全員で考える。 ・出たアイデアを分かりやすく書き込み、全員の共通理解が進むようにする。



Point!

枝ごとに色分けをし、系統を意識して発想を広げていきましょう。



それぞれの考えを認め合って進めるようにするとよいですね。
また、ファシリテーターと記入者を分担し、進めていくこともできますね。

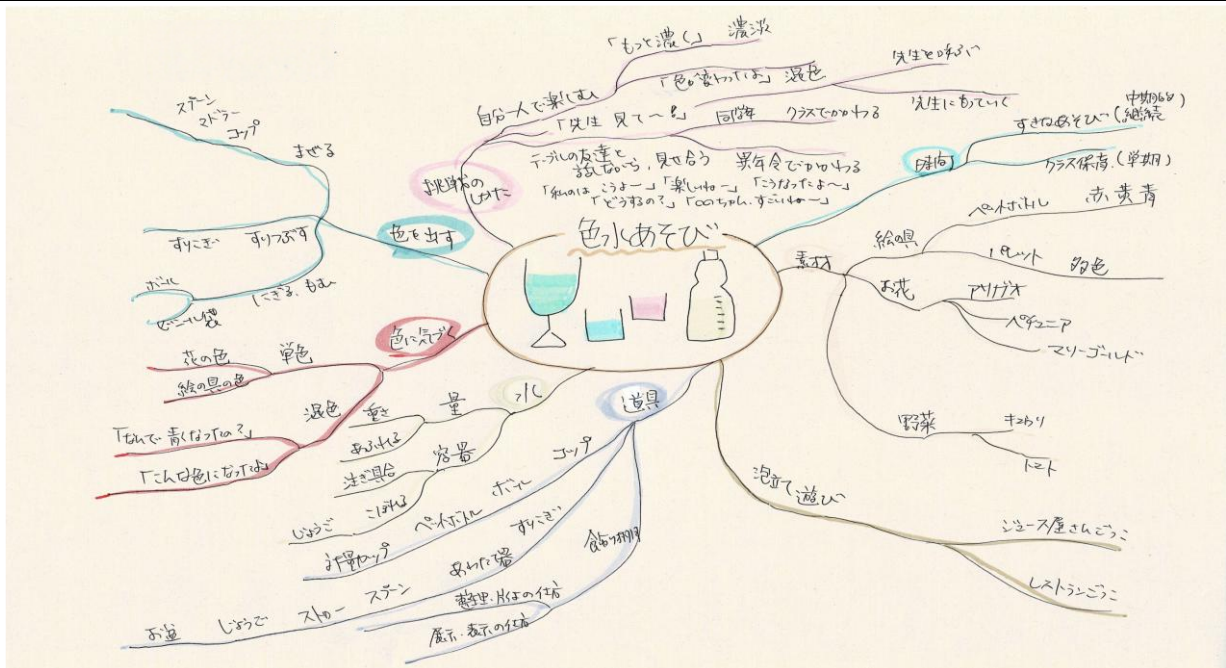


ペンの色を変える、枠で囲むなど視覚的に分かりやすくする方法を工夫しましょう。

アドバイス

- ・右ページの研修例では、2~4人の小グループでの話し合いを例に挙げてみました。
- ・例のように「色水遊び」と一言で言っても、そこからイメージを広げて考えることは難しいですね。一人ひとりがアイデアを広げ、他者と触れ、刺激し合ったり共通項を探ったりしながら、新たな視点を生み出すことに挑戦していきましょう。

<p>Step 1</p> <p>5分</p>	<p>①導入・問いの提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマの共有、ねらいの説明、進め方の確認 <p>②個人でのマインドマップ作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマとなるキーワードに沿って思いついたことを連鎖させ、放射線状の図式として表す。 ・頭に浮かんだことからイメージを広げ、筋道立てて書いていく。 <p>【例】「色水遊び」から、「絵の具・お花」「混ぜる・すりつぶす・もむ」「ジュース屋さんごっこ・混色のおもしろさに気付く」など</p>
<p>Step 2</p> <p>10分</p>	<p>③全員での話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自のマインドマップを1つのマインドマップにまとめて表す。 ・共通のキーワードを用紙の真ん中に記入し、共通する筋道をまとめたり、独自のアイデアを加えたりする。 ・各自のマインドマップがもれなく反映されるよう、言葉選びや枝分かれの項目について考えを出し合う。 ・枝分かれの項目をポイントとなる言葉で表現する。 <p>【例】「色を出す手段」「道具」「素材」「準備の方法」「子どもが発見したこと」「遊び方の過程」「遊びの広がり」など</p>
<p>Step 3</p> <p>5分</p>	<p>④まとめと振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめたマインドマップから、例えば、遊び方や準備物、子どもの挑戦する姿など予想されることに更に新たな視点の付け加えができないか、全員で考える。 <p>【例】「作る過程での発見」「泡立て遊びと一緒に」「必要な時間の確保」「異年齢での遊びへ」など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気づきを出し合って生み出されたアイデアを確認し、新たな環境構成を考える。



(2) リフレーミング ～捉え方を変えて理解を深める～

所要時間 30分
事前準備 無

出来事や子どもの行動をこれまでの見方や考え方とは異なる「別の枠組み」で捉え直して、考え方や関わりの変化につなげます。単に肯定的に捉えるだけでなく、子どもの行動を「育ちのサイン」として捉え直すことで、子どもや保育者の可能性を広げることができます。

人数	準備物	テーマ例
3人以上 (1グループ3～4人程度)	・リフレーミングシート(P.42～43参照) または記録用紙	・気になる子どもの理解 ・トラブルの理解と対応 ・保護者への対応 等

進め方

Step1 5分	<p>○「テーマ」に関係する出来事について、個人で捉え直す。 *個人用リフレーミングシート(P.42参照)を活用するとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例(誰がどうした) ・自分の反応・感情 ・行動や言葉の背景にある発達の意味・育ちの視点 ・リフレーミング(捉え直し:別の言い方に変換) 例:「取り合い」→「自己主張・交渉の練習」など ・リフレーミングから導いた援助
Step2 20分	<p>○グループで共有する。 ・各自がリフレーミングした内容を共有し、他の捉え方がないかを検討したり、援助を導き出したりする。 *グループ用リフレーミングシート(P.43参照)を活用するとよい。</p>
Step3 5分	<p>○全体で共有する。 ・グループごとにリフレーミングの内容とそこから導き出した援助について報告し合い、共有する。</p>



事前にテーマを提示して、個人用リフレーミングシートを記入しておく、話し合いから始められます。



活用しやすくするために、簡潔に記入しましょう。
・事実是一行で
・自分の反応を一言で
・一文でリフレーミング



子どもの気持ちに寄り添って考えると、育ちの視点が見えやすくなります。



育ちの視点が複数あると効果的です。それぞれの意見を引き出すようにしましょう。



効果を確認し合い、明日からの対応等に生かせるようにまとめましょう。

アドバイス

- ・まずは自分が出会った事例を基に素直に考えて、自分の捉え方の傾向をつかみましょう。
- ・リフレーミングで大切なのは、背景を探るまなざしです。ポジティブに捉えて言い換えることで、育ちに目を向け、「問題」から「可能性」に変わるように意識しましょう。
- ・一人で考えるよりも、他の人の見方に触れ一緒に考えることで、より豊かにリフレーミングができます。グループでの対話を重視して、多様な捉え方や援助を導き出すようにしましょう。
- ・リフレーミングの大切さに気付いたら、日常的に習慣付くように心がけるといいですね。

<p>Step1</p> <p>5分</p>	<p>①導入・問いの提示</p> <p>○テーマの共有、ねらいの説明、進め方の確認</p> <p>○リフレーミングの説明</p> <p>・子どものトラブルと聞いて思い浮かぶことは？（→物の取り合い・叩く・言い合うなど）</p> <p>・トラブルをよくないことではなく、「育ちのチャンス」という見方で、違う角度から捉えてみよう。</p> <p>②経験したトラブル事例についてリフレーミング（個人用リフレーミングシートに記入）</p> <p>【例：A先生のリフレーミングシート】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%;">① 事例(短く) 誰がどうした(行動や言葉)</td> <td>Bくんが友達のおもちゃを取った</td> </tr> <tr> <td>② 自分の反応・感情 (チェック+ひとこと)</td> <td><input type="checkbox"/> 困った <input checked="" type="checkbox"/> 良くないこと <input type="checkbox"/> 驚いた <input type="checkbox"/> イライラ <input type="checkbox"/> 悲しい <input type="checkbox"/> その他(また取った) ひとこと(「取ったらダメ」と言った 叱るべきか迷った)</td> </tr> <tr> <td>③ 行動や言葉の背景にある発 達の意味・育ちの視点(チェッ クまたは記入)</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 自己主張 <input type="checkbox"/> 興味・関心 <input type="checkbox"/> 感情調整 <input type="checkbox"/> 意欲・集中 <input type="checkbox"/> 関係づくり <input type="checkbox"/> ルール理解 <input type="checkbox"/> その他(自己主張の練習・おもちゃが大好き)</td> </tr> <tr> <td>④ リフレーミング (捉え直し) 今の言い方⇒言い換え</td> <td>思い通りにする⇒自分の要求を主張しようとしている 譲れない・我慢できない⇒物への強い気持ちがある</td> </tr> <tr> <td>⑤ ④から導いた援助 (かかわり・言葉)</td> <td>Bくんの気持ちを言葉にする「使いたかったんだよね」 「使いたいことをCくんをお願いしてみようね」</td> </tr> </table>	① 事例(短く) 誰がどうした(行動や言葉)	Bくんが友達のおもちゃを取った	② 自分の反応・感情 (チェック+ひとこと)	<input type="checkbox"/> 困った <input checked="" type="checkbox"/> 良くないこと <input type="checkbox"/> 驚いた <input type="checkbox"/> イライラ <input type="checkbox"/> 悲しい <input type="checkbox"/> その他(また取った) ひとこと(「取ったらダメ」と言った 叱るべきか迷った)	③ 行動や言葉の背景にある発 達の意味・育ちの視点(チェッ クまたは記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 自己主張 <input type="checkbox"/> 興味・関心 <input type="checkbox"/> 感情調整 <input type="checkbox"/> 意欲・集中 <input type="checkbox"/> 関係づくり <input type="checkbox"/> ルール理解 <input type="checkbox"/> その他(自己主張の練習・おもちゃが大好き)	④ リフレーミング (捉え直し) 今の言い方⇒言い換え	思い通りにする⇒自分の要求を主張しようとしている 譲れない・我慢できない⇒物への強い気持ちがある	⑤ ④から導いた援助 (かかわり・言葉)	Bくんの気持ちを言葉にする「使いたかったんだよね」 「使いたいことをCくんをお願いしてみようね」				
① 事例(短く) 誰がどうした(行動や言葉)	Bくんが友達のおもちゃを取った														
② 自分の反応・感情 (チェック+ひとこと)	<input type="checkbox"/> 困った <input checked="" type="checkbox"/> 良くないこと <input type="checkbox"/> 驚いた <input type="checkbox"/> イライラ <input type="checkbox"/> 悲しい <input type="checkbox"/> その他(また取った) ひとこと(「取ったらダメ」と言った 叱るべきか迷った)														
③ 行動や言葉の背景にある発 達の意味・育ちの視点(チェッ クまたは記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 自己主張 <input type="checkbox"/> 興味・関心 <input type="checkbox"/> 感情調整 <input type="checkbox"/> 意欲・集中 <input type="checkbox"/> 関係づくり <input type="checkbox"/> ルール理解 <input type="checkbox"/> その他(自己主張の練習・おもちゃが大好き)														
④ リフレーミング (捉え直し) 今の言い方⇒言い換え	思い通りにする⇒自分の要求を主張しようとしている 譲れない・我慢できない⇒物への強い気持ちがある														
⑤ ④から導いた援助 (かかわり・言葉)	Bくんの気持ちを言葉にする「使いたかったんだよね」 「使いたいことをCくんをお願いしてみようね」														
<p>Step2</p> <p>20分</p>	<p>③グループ協議・リフレーミング（5分×4人）</p> <p>・各自の事例を紹介し、別の捉え方（リフレーミング）やリフレーミングを生かした援助や言葉がけのアイデアを具体的に話し合う。 *グループ用リフレーミングシートに記入</p> <p>【例：Dグループのリフレーミングシート】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">事 例 (箇条書き)</th> <th style="width: 20%;">育ちの視点 (多様な視点で)</th> <th style="width: 30%;">リフレーミング 今の言い方⇒言い換え</th> <th style="width: 35%;">援助のアイデア (かかわり・言葉)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">おもちゃ を 取る</td> <td>A 自己主張</td> <td>勝手・思い通りにする ⇒ 思いを行動で表している</td> <td>ふさわしい行動を示す 「貸してって言おうね」</td> </tr> <tr> <td>B 感情調整</td> <td>がまんできない・欲張り ⇒ 感情コントロールを学び中</td> <td>感情を受け止める 落ち着くようにかかわる</td> </tr> <tr> <td>C 物への興味・関心</td> <td>独り占めして手放さない ⇒ 強い興味・関心がある</td> <td>使いたい思いを受け止める 満足するまで使えるよう保障</td> </tr> </tbody> </table> <p>・残り1分で、全体に紹介したいグループの事例を1つ決める。</p>	事 例 (箇条書き)	育ちの視点 (多様な視点で)	リフレーミング 今の言い方⇒言い換え	援助のアイデア (かかわり・言葉)	おもちゃ を 取る	A 自己主張	勝手・思い通りにする ⇒ 思いを行動で表している	ふさわしい行動を示す 「貸してって言おうね」	B 感情調整	がまんできない・欲張り ⇒ 感情コントロールを学び中	感情を受け止める 落ち着くようにかかわる	C 物への興味・関心	独り占めして手放さない ⇒ 強い興味・関心がある	使いたい思いを受け止める 満足するまで使えるよう保障
事 例 (箇条書き)	育ちの視点 (多様な視点で)	リフレーミング 今の言い方⇒言い換え	援助のアイデア (かかわり・言葉)												
おもちゃ を 取る	A 自己主張	勝手・思い通りにする ⇒ 思いを行動で表している	ふさわしい行動を示す 「貸してって言おうね」												
	B 感情調整	がまんできない・欲張り ⇒ 感情コントロールを学び中	感情を受け止める 落ち着くようにかかわる												
	C 物への興味・関心	独り占めして手放さない ⇒ 強い興味・関心がある	使いたい思いを受け止める 満足するまで使えるよう保障												
<p>Step3</p> <p>5分</p>	<p>④全体共有</p> <p>・各グループ1事例ずつ、リフレーミングと援助のアイデアを報告し、全員で共有する。</p> <p>⑤まとめと振り返り</p> <p>・「トラブル=問題」という捉えから「成長のきっかけ」へと捉え方が変わったかを確認する。</p> <p>・「育ちの視点」をもつと理解が深まり、援助が導かれることを日常的に意識しよう。</p> <p>・今日考えた援助のアイデアを明日から実践してみよう。</p>														

(3) フォトラーニング ~具体的場面を読み解き、気づきを得る~

所要時間 20分
事前準備 有

保育の写真やビデオから子どもの活動を自分なりに読み取り、参加者同士で互いに意見を交わす手法です。対話から、保育中には見えていなかった子どもの様子や思いが明らかになり、新たな視点や気づきを得ることができます。

人数

3人以上
(1グループ3~4人程度)




準備物

・写真・ビデオ…保育活動や環境構成の場面
・ワークシート(P.44参照)

テーマ例

・着替えや食事の支援
・友達関係の理解
・環境構成の工夫 等

進め方

<p>Step1 5分</p>	<p>○写真提供者が説明する。 ・なぜその写真(場面)を選んだのか、状況や自身の思い・願い・意図を説明する。</p>	 <p>時間配分をしながら、一つの話題に関連した発言が繋がっていくとよいですね。</p>
<p>Step2 10分</p>	<p>○グループで話し合う。 ・参加者は、写真を通じて子どもの様子や保育のアプローチ、環境構成などについて意見を出し合う。 ・提供者への質問や投げかけも行う。 ・人数が多いと感じたら、3~4人の小グループに分かれて話し合うことも考える。</p>	 <p>互いに深い思いへと辿り着けるよう、小グループを活用すると効果的です。</p>
<p>Step3 5分</p>	<p>○全体で共有する。 ・話合いの内容を確認し合い、今後の考え方や援助の方向性を共有する。</p>	 <p>全体共有では意見調整が必要ですね。参加者同士が課題を導き出すきっかけとなるワードやヒントが提供できるようにしましょう。</p>

アドバイス

- ・写真の中に子どもの姿が映し出されていなくても、構成された保育環境の中で、実際に子どもがどのように活動したか、主体的な活動ができたかなど、意見交換をすることができます。
- ・園全体で取り組む場合は、グループの数の写真を準備し、小グループの協議を踏まえて全体で話し合うことができます。

<p>Step 1</p> <p>5分</p>	<p>①導入・問いの提示 ・テーマの共有、ねらいの説明、進め方の確認</p> <p>②写真提供者から写真説明 ・この写真を取り上げた理由やタイトルへの思い、状況などを伝える。</p> <div data-bbox="287 521 882 981"> <p>フォトラーニングシート</p> <p>2025年〇月〇日 記録者(〇〇)</p> <p>①写真のタイトル</p> <p>A B</p> <p>あわあわが、できるね!</p> <p>②この写真を選んだ理由</p> <p>A 好きな遊びの時間に年長児、年中児と一緒に泡立て遊びを楽しんでいるところ。できた泡を合体させている瞬間。それぞれの子どもは、どんな思いで遊んでいる? B 年長児が先生と泡をやり取りしている場面。この先生はどんな気持ちで、どんな援助をしているのだろうか? この年長児はどういう気持ちなんだろう?</p> <p>③「タイトル」「この写真を選んだ理由」「写真の様子」について語り合い、気づきや考え、感じたこと等をメモする</p> <p>略</p> </div> <div data-bbox="922 521 1414 981"> <p>A 今は、泡を立てることを楽しんでいる段階。それぞれの子どもはどんな思いで遊んでいるのだろうか?</p> <p>B 泡立て遊びの経験の少ないこの年長児に対して保育者はどんな気持ちで、今後、どのような援助をしていくのだろうか? この年長児はどんな気持ちで泡立て遊びをしているのだろうか?</p> </div>
<p>Step 2</p> <p>15分</p>	<p>③協議 ・子どもの様子や気持ちについて語る。</p> <div data-bbox="279 1104 624 1234"> <p>二人はしし合わせてボールの泡を合体させていますよね。仲よしですよ。</p> </div> <div data-bbox="279 1256 624 1469"> <p>奥の年長児 (B の子ども) は周りの子どもの様子に気付かず、自分の泡づくりに集中している様子です。</p> </div> <div data-bbox="632 1207 995 1480"> </div> <div data-bbox="735 1021 995 1189"> <p>赤い帽子の子どもは、二人の様子をじっと見ているね。</p> </div> <div data-bbox="1015 1021 1406 1167"> <p>「泡を合体させるとそうなるのか〜!」って実感しているの?!</p> </div> <div data-bbox="1015 1189 1406 1469"> <p>この泡や水の量の感じだったら、ようやく泡立つようになったという段階かな? この子どもは「もっともっと泡立てたい。」と思っているのではないかな?</p> </div>
<p>Step 3</p> <p>10分</p>	<p>④全体で共有・まとめ ・意見を共有する。</p> <div data-bbox="279 1581 826 1760"> <p>子どもたちは、粉にした石鹸を泡立て、泡の感触を味わい、泡ができることを喜んでい。今はこの楽しさを存分に味わってほしい。</p> </div> <div data-bbox="842 1581 1396 1760"> <p>泡づくりの経験が、もう少し多い年長女児がつくる、ホイップのようなきめ細かな泡を紹介すると、「あんな泡が作りたい」と、もっと挑戦してみようという気持ちになるのかな?</p> </div> <div data-bbox="279 1783 1396 1883"> <p>子どもたちが泡づくりを進めるうちに、水や石鹸の量のバランス、泡立て器の回し方などに気付くかな? 気付きに寄り添えるような言葉がけをしたい。</p> </div> <p>・フォトラーニングを通しての気づきや考えをまとめる。</p> <div data-bbox="279 1939 1396 2051"> <p>保育場面の一瞬を捉え、多角的に子どもや遊びの様子を読み取り、それに伴う保育者の援助のあり方について考える手段として有効である。話し合いがタイムリーにできるとよりよいと感じる。</p> </div>

(4) ラベルワーク ～意見を整理し、共通理解を得る～

所要時間 25分
事前準備 無

意見や気づきを付箋に書き出し、内容をグループ化してラベルを付けることで、情報を可視化・整理する手法です。付箋に書くことで意見が出しやすく、可視化や共有がしやすいという利点があり、対話を通じて問題の構造を捉えたり、本質に迫ったりすることができます。

人数

4人以上
(1グループ4～6人程度)

準備物

・大きめの付箋(複数色)
・サインペン(複数色)
・模造紙(ホワイトボード)

テーマ例

・めざす子どもの姿の共有
・保護者対応のポイント
・遊びを深める環境構成 等

進め方

Step1 5分	○個人で付箋に記入する。 ・「テーマ」に沿って、自分の意見やアイデアを付箋に書く。 ・アイデアは、付箋1枚につき1つ、具体的かつ簡潔に書き、できるだけ多く出す。
Step2 15分	○グループで話し合う。 ・付箋を見せ合い、背景や意味を共有しながら、模造紙(ホワイトボード)に並べる。 ・意味や内容の似た付箋を集めて並べ替え、小グループ化する。 ・グループ化したものに、まとまりを適切に表現するラベル(一行見出し)を付ける。 ・小グループをさらにまとめて大グループに整理し直し、大グループにもラベル(一行見出し)をつける。
Step3 5分	○全体で共有する。 ・グループごとに表現した内容や気づきを発表して、全体で共有する。



考え過ぎず、思いついたことは書いてみましょう。並べて俯瞰してみたときに、思わぬ発見につながる可能性があります。



グループ内の誰か一人がどんどん進めるのではなく、誰もが意見を述べ、相談しながらグループ化やラベル付けができるように配慮しましょう。



ラベルは、グループ化した内容が一目で分かるように要約しましょう。色の異なる付箋やペンを使うと分かりやすいですね。



発表せずに、模造紙を掲示して見合うことで時間短縮できます。

アドバイス

- ・グループ化は、2、3枚で小グループを作ることから始め10個以内のグループになるまで繰り返すとよいでしょう。どのグループにも属さないものは1枚で大丈夫。無理にグループにする必要はありません。
- ・グループ化やラベル付けでは、思い込みや先入観をなくし、メンバーと話し合い、確認し合いながら丁寧に作業を進めていきましょう。対話を促進することが発見や気づきにつながります。ラベル同士のつながりや順序、因果関係などまで探っていくと、さらに問題の構造や本質に迫ることもできます。

<p>Step1</p> <p>5分</p>	<p>①導入・問いの提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマの共有、ねらいの説明、進め方の確認 <p>②個人で付箋に考えを記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの主体的な遊びを育むには」どんなことが大切だと思うか、付箋1枚につき1つずつ、思いついた自分の意見や考えを記入する。 ・できるだけ多くの考えを出す。要点が分かるよう箇条書きで大きく書く。 																					
<p>Step2</p> <p>15分</p>	<p>③グループ協議 対話しながら付箋の内容をグループ化し、ラベル付けをする。</p> <p>○グループ化(仲間分け)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の付箋を示しながら考えを説明し、模造紙に貼っていく。 ・同じような意見を近くに貼ったり、貼り替えたりしながら意味のまとまりを探す。 <p>○ラベル付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ化してまとめたものにラベル(小見出し)を付ける。 ・さらに大きくグループ化してラベル付けをする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="311 996 746 1742" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【個人意見の例(付箋)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由に使える遊具がある ・口を出しすぎない ・子ども同士で関われる空間がある ・「ダメ」を言い過ぎない ・遊びの途中で止めない ・子どもの発見を面白いがる ・年齢の違う子どもと遊べる場がある ・大人も一緒に楽しむ ・自分の思いや考えがある ・自分の思いが言える ・考えたことを試す場がある ・予定に余白がある ・「やってみたい」を尊重する ・子どものつぶやきを大事にする ・失敗してもやり直せる雰囲気がある ・「やってみたら？」と背中を押す ・異年齢でかかわり、刺激し合える場 ・ルールや規制を最小限にする ・次の日もできる ・繰り返してできる </div> <div data-bbox="762 996 1444 1742" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【グループ化とラベル付けの例】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">グループ化</th> <th style="text-align: center;">小ラベル</th> <th style="text-align: center;">大ラベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">自由に使える遊具 考えたことを試す場 次の日もできる</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">選ぶ・試す 繰り返す環境</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">探究的 な環境</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">子ども同士の関わり 年齢の違う子と遊べる</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">人と出会う 空間</td> <td rowspan="2" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">時間と 空間の 確保</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">遊びの途中で止めない 予定に余白がある</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">時間の確保 緩やかな流れ</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「ダメ」を言い過ぎない 「やってみたら？」 発見を面白いがる 大人も一緒に楽しむ</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">言葉がけ 認める</td> <td rowspan="2" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">肯定的 な大人 のまな ざしや 関わり</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「やってみたい」を尊重 口を出しすぎない ルールや規制を最小限に 失敗してもやり直せる 繰り返してできる</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">子ども目線</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">思いを大切に する</td> <td rowspan="2" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">子ども の思い の尊重</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">挑戦できる</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div>	グループ化	小ラベル	大ラベル	自由に使える遊具 考えたことを試す場 次の日もできる	選ぶ・試す 繰り返す環境	探究的 な環境	子ども同士の関わり 年齢の違う子と遊べる	人と出会う 空間	時間と 空間の 確保	遊びの途中で止めない 予定に余白がある	時間の確保 緩やかな流れ	「ダメ」を言い過ぎない 「やってみたら？」 発見を面白いがる 大人も一緒に楽しむ	言葉がけ 認める	肯定的 な大人 のまな ざしや 関わり	「やってみたい」を尊重 口を出しすぎない ルールや規制を最小限に 失敗してもやり直せる 繰り返してできる	子ども目線		思いを大切に する	子ども の思い の尊重		挑戦できる
グループ化	小ラベル	大ラベル																				
自由に使える遊具 考えたことを試す場 次の日もできる	選ぶ・試す 繰り返す環境	探究的 な環境																				
子ども同士の関わり 年齢の違う子と遊べる	人と出会う 空間	時間と 空間の 確保																				
遊びの途中で止めない 予定に余白がある	時間の確保 緩やかな流れ																					
「ダメ」を言い過ぎない 「やってみたら？」 発見を面白いがる 大人も一緒に楽しむ	言葉がけ 認める	肯定的 な大人 のまな ざしや 関わり																				
「やってみたい」を尊重 口を出しすぎない ルールや規制を最小限に 失敗してもやり直せる 繰り返してできる	子ども目線																					
	思いを大切に する	子ども の思い の尊重																				
	挑戦できる																					
<p>Step3</p> <p>5分</p>	<p>④全体共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにラベルと内容、気づきを発表する。 <p>⑤まとめと振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的な遊び」が生まれる条件についてまとめる。 ・気づきをもとに、現場でできることを考える。 (明日からできること、まず変えてみたいことを一人1つ書き出すなど。) 																					

(5) KPT法 ～短時間で振り返り、次の目標を決める～

所要時間 30分
事前準備 無

「Keep (続けたいこと)」と「Problem (課題)」を整理することで、短時間で効率的に振り返り、それを踏まえて次回以降に「Try (試したいこと)」を決めていく、簡単なフレームワークです。よいところを継続しながら改善策や課題解決に向かうことができます。

人数

3人以上
(1グループ3~5人程度)






準備物

・付箋3色(一人各3~5枚)
・模造紙またはホワイトボード
・マーカー

テーマ例

・行事後の振り返り
・月案の見直し
・チーム保育の改善 等

進め方

<p>Step1 5分</p>	<p>○個人で振り返る。 ・「テーマ」について、K(続けたいこと・達成できたこと)とP(課題・悩み)を個人で簡潔に付箋に記入する。 (付箋1枚に内容は1つ)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffe0e0;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">K</p> <ul style="list-style-type: none"> ・続けたいこと ・達成できたこと </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #fff9c4;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">P</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題 ・悩み </div> </div>	<p> 書くことに注力しすぎないよう、様子を見て切り上げましょう。</p> <p> KとPを先に書くことで、目標が定まりやすくなります。付箋の色を変えて、分かりやすくしましょう。</p>
<p>Step2 10分</p>	<p>○グループで話し合い、共有する。 ・それぞれが記入したK(続けたいこと)とP(課題)の付箋を、背景も説明しながら、模造紙(ホワイトボード)に貼っていく。 ・似た内容は近くにまとめて貼り、分かりやすくKとPを整理して共有する。</p>	<p> 一人1枚ずつ順番に貼ったり、似た内容がある人が次に話したりして、偏りなく皆が話せるようにしましょう。</p>
<p>Step3 15分</p>	<p>OKとPを基に、T(試したいこと・目標)を個人で記入する。 ○グループでTを共有し、皆で取り組むことを話し合う。 ・各自のTを発表しながら付箋を貼っていく。 ・Tをグルーピングし、皆で取り組みたいことを決め、優先順位を付ける。 (個人での振り返りの場合は、個人で優先順位を付ける) ○全体で共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0ffe0; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">T</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試したいこと ・目標 </div>	<p> KとPを付箋に記入し、関係する場所に貼るところまでを事前にやっておくと、貼ったものを見合っって協議するところから始められ、時間短縮できます。</p> <p> 目標に優先順位を付けることで、まずは一歩を踏み出せるようにしましょう。</p>

アドバイス

- ・目標は、できるだけ「ぐたいてきに」書くように心がけましょう。
- ・決まった目標は、いつも見える場所に貼る(置く)と達成しやすくなります。
- ・目標の数は、大きな目標なら1つ、小さな目標ならいくつあっても構いません。小さな目標の「できた!」を積み重ねながら、大きな目標に向かって取り組みましょう。

ぐ…具体的に書く
た…達成可能なことを書く
い…意欲が持てることを書いて…定量化する(週1回など)
き…期日を決める
に…日課にする

<p>Step1 5分</p>	<p>①導入・問いの提示 ○テーマの共有、ねらいの説明、進め方の確認</p> <p>②個人で Keep と Problem を付箋に記入 (それぞれ3~5枚程度) ・Keep (続けたいこと): うまくいったこと、今後も続けたい取組 (ピンクの付箋) ・Problem (課題): 困ったこと、うまくいかなかったこと (黄色の付箋) ・付箋1枚に1つずつ記入する。 ・要点が一目で分かるように箇条書きで大きく書く。</p>
<p>Step2 10分</p>	<p>③グループ協議 ・それぞれが順番に、記入した付箋の内容について説明しながら模造紙に貼っていく。 ・思いや背景を説明し合うことで、理解を深めたりポイントを確認したりしながら進める。 ・似た内容は近くにまとめ、Keep (続けたいこと) と Problem (課題) を共有・整理する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="300 913 818 1198" style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">Keep の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが親しんでいる演目を選んだ ・自分たちで必要な道具を考えてつくった ・子どもがアイデアを出し合っていた ・友達の工夫や頑張りを認め合っていた ・その子らしく表現して楽しんでいた ・衣装づくりを保護者と一緒に行った </div> <div data-bbox="837 913 1449 1198" style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">Problem の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部の子どもにはセリフが難しかった ・舞台上立つことが不安な子どもがいた ・当日音響トラブルがあった ・リハーサルの時間が足りなかった ・長時間の練習で集中が切れていた ・保護者がその子らしい表現を理解する必要がある </div> </div>
<p>Step3 15分</p>	<p>④協議を基に個人で Try を考え、付箋に記入 ・Try (試したいこと): 改善案、新しく挑戦したいこと (緑の付箋)</p> <p>⑤グループ協議 ・個々のTry案をグループで共有し、次に生かすアクション (Try) を話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="300 1451 970 1765" style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">Try の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お話に親しむように毎日読み聞かせをする ・子どもと一緒に言いやすいセリフを考える ・セリフ以外の表現方法を工夫する(動き・ダンス・歌) ・歌やダンスを日頃から楽しむ ・安心できるように、事前に舞台に慣れる時間を増やす ・一回の練習時間は時間を短くして回数を増やす ・保護者に日頃の楽しんでいる姿を伝える </div> <div data-bbox="986 1451 1449 1765" style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;"> </div> </div> <p>⑥全体共有とまとめ ・皆で取り組む改善策ややってみたいことを決める。 ・次回から挑戦できることを共有し、優先順位をつけて着実に実施できるようにする。</p> <p>【決定したTryの例】 ①毎日お話や歌に親しむ ②日頃から保護者に子どもの様子を伝える ③子どもの思いを聞いて子どもと一緒に日々の活動を進める</p>

(6) エピソード検討 ～事例を基に話し合い、理解を深める～

所要時間 30分
事前準備 有

日常の出来事(印象的な場面・困りごとなど)の記録を持ち寄り、子どもの思いや行動の意味などを対話的に話し合うことで、実践的な気付きを引き出します。個々の気付きとともに保育者同士の保育観の共有や相互理解などが期待できます。

人数	準備物	テーマ例
3人以上 (1グループ3～5人程度)	・エピソード記録(心に残った場面や出来事の記録・取り上げた背景もあるとよい)	・子どもの内面の理解 ・環境や援助のあり方 ・発達に応じた支援 等

進め方

事前に	○エピソード記録提供者は事前に記録を配付し、参加者は一読しておく。*エピソード記録シート(P. 45)を活用しても可 【エピソード記録の内容例】 〔 ・幼児の活動(いつ、どこで、誰が、どうした) ・保育者の援助 ・気付き・考察・環境構成 〕
Step1 5分	○エピソード記録を共有し、個人で読み取る。 ・全員(または各自)で記録を読む。 (気になった言葉や行動、保育者の対応、問いなど) ・記録提供者は、自身の思いや問いかけたいことなどを話す。
Step2 20分	○話し合う。(全員またはグループで) ・参加者は、提供者への質問と併せて子どもの姿や思い、保育者の援助、環境構成などについて、自身の考えを語る。 ・他者の意見を聞いて、深めたり、新たな考えを述べたりする。 ・話題が重なる部分などからキーワードやポイントとなる点を集約し、めざす方向性を共通理解していく。
Step3 5分	○気付きの共有とまとめ ・グループごとに気付きを発表して、全体で共有する。 ・明日からの保育に生かせることを確認する。



早めに記録を配付し、事前に読み込んで、個々の気付きや思いなどをまとめておくと、時間短縮になり、話し合いも深まります。



記録提供者の思いや問いを共有しながら、子どもの気持ちや考えなどを発達や背景、関係性から自分なりに読み解いてみましょう。



誰でも話せる雰囲気をつくりましょう。様子を見て、話し合いの糸口となる「問い」を投げかけるのもいいですね。



少数意見や着眼点がユニークな意見も大切にして、多様な考えを引き出すようにしましょう。



多面的な考えに触れ、気付きを得られたという実感がもてるといいですね。

アドバイス

- ・エピソード記録の中の子どもの姿や保育者の援助、環境構成について提供者が語り、参加者が自分ごととして追体験することで、共通の保育場面について協議が深まります。
- ・対話中心となるため、ファシリテーターの役割が非常に重要です。どんな気持ちや考えも表してよいという安心感の下で話し合えると幅広い考えや深い理解につながります。
- ・交代でエピソード記録を持ち寄り、検討を繰り返すことで、継続的な学びにつなげていきましょう。

<p>Step1</p> <p>5分</p>	<p>①導入・問いの提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマの共有、ねらいの説明、進め方の確認 ・積極的に多様な意見を出し合い、認め合うことが重要であることを確認する。 <p>②エピソード記録の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エピソード記録を読み、自分の気付きや思いをメモする。 ・エピソード提供者は、記録をもとに自身の思いや問いかけたいことなどを話す。 <div data-bbox="300 629 1428 1182" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【4歳児 事例】 5月31日・6月9日 「チョウを捕まえない」</p> <p>(背景) 虫好きなユウたち男児数人は、4月はダンゴムシ探しに夢中だった。5月になるとモンシロチョウが羽化したので、誘い合って探したり捕まえたりする日々が続いていた。5月28日、ユウがウサギ小屋周辺でチョウを見つける。年長がウサギの世話をした後で、地面の水たまりにチョウが止まっていたので、保育者が「チョウがお水飲みに来たね。」と言うと、「えっ、お水飲むん？」とユウ。「そうなんよ、チョウってよく水がある所に来るんだよね。」と保育者が言うと、ユウは「へえ〜。」と感心していた。</p> <p>5月31日、ユウたち5人はチョウを探しながら園内を回っている。大庭から裏庭へ回り、さらに池まで行ったところで、ユウが「先生、池の水出して。チョウは水が好きだから来るはず。」と言う。保育者が水を出すと、ユウたちは水を触ったり池の周りを回ったりしてチョウを待つ。チョウが来ないので、「来ないじゃん。」「裏庭がいいんじゃない？」などと話している。「人がいない静かな所に来るかも。」と保育者が言うと、ちょうど誰もいない少し離れた所にチョウが見え、5人は走り寄って網で捕まえる。</p> <p>6月9日、ユウたち3人は園庭でチョウを探している。保育者が行くと、ユウがすぐに「先生水撒いて。あそこにホースがあるから。」と言う。保育者がホースを出してユウに渡し、ユウが辺りに水を撒く。しばらく待っているがチョウは来ない。アキトが「あっちにはチョウはおらん。」</p> <p style="text-align: center;">略</p> </div>																							
<p>Step2</p> <p>20分</p>	<p>③話し合い(グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿や思い、保育者の援助、環境構成などについて、自分の考えを語り合う。 ・話題が重なる部分などからキーワードやポイントを集約したり、方向性を共通理解したりする。 <table border="1" data-bbox="331 1323 1428 1825"> <tr> <td rowspan="2">例</td> <td rowspan="2">子どもの姿</td> <td>子どもは何を考えていた？</td> <td>水を撒けばチョウが来ると予想していた。</td> </tr> <tr> <td>どんな試行錯誤があった？</td> <td>池の水を出す、場所を変える、水を撒く、待つ</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">保育者の援助</td> <td rowspan="2">友達とのやりとりから見えることは？</td> <td>経験をもとに話したり、友達の意見を聞いて考え直したりしていた。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>どんな言葉かけや関わりが、子どもの思考を支えていた？</td> <td>「チョウが水を飲みに来た。」という言葉が、その後のユウの考えのきっかけになっていた。子どもの発言を受け止めて応じたり、一緒に考えたりすることで、考え直す機会をつくっていた。「人がいない静かな所に来るかも。」の言葉が環境への気付きを促し、観察の視点を広げていた。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">環境の役割</td> <td>他にどんな関わり方がある？</td> <td>「どうしてかなあ」と投げかける。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>どんな環境が子どもの思考を引き出していた？</td> <td>水たまりや池、ホースなど、自然や身近な環境が子どもの探究心を刺激していた。</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>今後考えられる環境構成は？</td> <td>園内を自由に移動できる環境が、探索や比較の機会を広げる。</td> <td></td> </tr> </table>	例	子どもの姿	子どもは何を考えていた？	水を撒けばチョウが来ると予想していた。	どんな試行錯誤があった？	池の水を出す、場所を変える、水を撒く、待つ	保育者の援助	友達とのやりとりから見えることは？	経験をもとに話したり、友達の意見を聞いて考え直したりしていた。		どんな言葉かけや関わりが、子どもの思考を支えていた？	「チョウが水を飲みに来た。」という言葉が、その後のユウの考えのきっかけになっていた。子どもの発言を受け止めて応じたり、一緒に考えたりすることで、考え直す機会をつくっていた。「人がいない静かな所に来るかも。」の言葉が環境への気付きを促し、観察の視点を広げていた。	環境の役割	他にどんな関わり方がある？	「どうしてかなあ」と投げかける。		どんな環境が子どもの思考を引き出していた？	水たまりや池、ホースなど、自然や身近な環境が子どもの探究心を刺激していた。			今後考えられる環境構成は？	園内を自由に移動できる環境が、探索や比較の機会を広げる。	
例	子どもの姿			子どもは何を考えていた？	水を撒けばチョウが来ると予想していた。																			
		どんな試行錯誤があった？	池の水を出す、場所を変える、水を撒く、待つ																					
保育者の援助	友達とのやりとりから見えることは？	経験をもとに話したり、友達の意見を聞いて考え直したりしていた。																						
		どんな言葉かけや関わりが、子どもの思考を支えていた？	「チョウが水を飲みに来た。」という言葉が、その後のユウの考えのきっかけになっていた。子どもの発言を受け止めて応じたり、一緒に考えたりすることで、考え直す機会をつくっていた。「人がいない静かな所に来るかも。」の言葉が環境への気付きを促し、観察の視点を広げていた。																					
環境の役割	他にどんな関わり方がある？	「どうしてかなあ」と投げかける。																						
	どんな環境が子どもの思考を引き出していた？	水たまりや池、ホースなど、自然や身近な環境が子どもの探究心を刺激していた。																						
	今後考えられる環境構成は？	園内を自由に移動できる環境が、探索や比較の機会を広げる。																						
<p>Step3</p> <p>5分</p>	<p>④全体共有とまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに話し合ったことを発表し、全体で共有する。 ・明日からの保育に生かせることを確認する。 <p>例</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは、経験したことや他の人の言葉をもとに自分なりに考えたり試したりする。 ・子どもの「なぜ?」「どうして?」を大切に、試行錯誤できる環境と関わりを意識する。 </div>																							

(7) 園内公開保育 ～保育実践を共有し、多様な視点を得る～

所要時間 90 分程度
事前準備 有

保育活動を多くの職員で参観し、その後、互いに意見を交わし合い、多様な意見を共有します。具体的な場面を通して話し合うことで、環境構成や援助のあり方などを考え、深めることができます。

人数

園内の職員数
(1グループ3~4人程度)

準備物

・保育案
・メモ帳またはノート
・振り返りのシートなど

テーマ例

・保育実践の実際
(園内テーマに応じて)
<例>季節の遊び
行事に向かう活動 等

進め方

事前に	○園内公開保育提供者は、事前に保育案を配付し、参加者は一読する。
Step1 40~ 50分	○保育を参観する。 ・子どもの活動に支障がないよう、姿勢を低くして参観する。出入口や廊下等での子どもの往来に差し支えないよう留意する。 ・保育案をもとに、子どもや保育者の様子、環境構成、自身の気付きなどをメモしながら参観する。 ・時間の全てを参観できない場合は、参観した時間を明確に記入し、子どもや保育者の様子を記録する。 ○保育提供者は、子どもたちがいつもの様子で活動できるように表情や言葉使いを柔らかく保つ。 ・保育補助者とは連携を密にして、その都度、情報共有しながら活動する。
Step2 20~ 35分	○研究協議をする。 ・保育提供者が自評を語る。保育の意図、ねらいに対して保育活動がどう進んだのか、子どもたちの様子はどうだったか、自身の援助や環境構成は適切だったか等を話し合う。 ・質疑応答後に、事前の協議ポイントに沿った話し合いを行い、参加者は率直に意見や感想を出し合う。
Step3 5分	○全体で共有する。 ・話し合いの内容を確認し、今後の環境構成や援助の方向性を共有する。



保育参観の視点や協議ポイントを事前に示しておく、よりスムーズな協議になりますね。



事前に自身の疑問点や共通点をメモするなどしておくといいですね。



子どもたちが普段通りの流れで活動できるように、参観の仕方にも配慮しましょう。



参加者が多数の場合は互いに気付きや考えを出し合えるよう、小人数での協議を取り入れられるといいですね。



多数の意見を共有し、方向付けながら、少数意見や新鮮な着眼点の意見が埋もれないように留意しましょう。



時間配分をしながら、一つの話題に関連した発言が繋がっていくといいですね。

<p>Step1</p> <p>60分</p>	<p>①保育参観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育のねらいや課題(異年齢保育の進め方や環境構成)などを明確にして参加し、それらの視点から子どもや保育者の様子、環境構成についてなどを具体的に記録する。 <p>「遊びながら工夫する」ことは難しいと感じたが、保育者の「鬼が一匹しかいないよ。どうする？」の声に、子どもたちは鬼の絵を描いて的に貼っていた。製作したり遊んで試したりできる環境構成が大事だと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育案や実際の保育活動についての疑問や不明な点、保育者に尋ねたいポイントなどを整理しておく。 <p>3~5歳児の縦割りグループで、それぞれのあて、玉入れ、ボーリングとゲームが決まっていたが、どのように決めたのか？</p> 
<p>Step2</p> <p>25分</p>	<p>②導入・問いの提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマの共有、ねらいの説明、進め方の確認 <p>③協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育提供者の自評を聞き、参加者の質問や感想、見取ったことを話し合う。 <p> <自評> 子どもたちから出た「みんなでいっぱい投げて当てたい」「一人でも投げたい」という2つの希望を叶えるために、投げ方を考え、「どうしたら的に当たるか」を話し合う時間が長すぎて活動が少なくなったことが反省点。</p> <p> <自評> 「こうしたい」という思いを言いながら遊んでいる子どもが多かったが年少児や年中児の中には自分の思いを言葉に出すことが難しい子どももいる。そういう子どもにもっとフォローが必要だったと思う。</p> <p> 子どもたちに考える力が育っている。ルールを守っていないなどのトラブルが起きたとき、みんなで考える様子が見受けられた。縦割りグループのよさを実感した。</p> <p> なかよしタイムが定着し、子どもの姿がよく見えるようになってきている。肯定的な言葉がけが多くできた。</p> <p> 振り返りを3学年一緒に行ったが、年少児には時間が長いのではないか。工夫が必要。 しかし、担任として子どもの姿をよく捉えていて、明日の活動につながる言葉がけができていた。</p> 
<p>Step3</p> <p>5分</p>	<p>④全体共有</p> <p>じっくり考えようとする姿、友達と一緒に取り組もうとする姿、年少児を気遣って声をかける姿など、子どもの成長が感じられた。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に落とし込んで、保育者同士が共有したり、保護者にも周知したりしていきたい。</p> <p>⑤まとめと振り返り</p> <p>保育案を作成し自分の保育を言語化して、実践、見取り、対話を重ねることを継続したい。</p>